



成果指標				
成果指標	入居者数を定員の8人とする。			
指標設定の考え方	空部屋を無くし、利用率の最大化を図るため。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	8	8	8	0
実績	7	6	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	平成27年4月時点では満床(8名)であったが、平成28年3月末においては2名減6名の入所となった。指定管理者へ施設が適切に活用されるよう促していく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	平成28年3月末の利用者は、6名であり、指定管理者と連携して施設が適切に活用されるよう努める必要がある。高齢者施設等が多数建設され、また、民間のアパート等もあることから、市が高齢者共同住宅を保有する必要性についても検討を進めていく必要があるのではないだろうか。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	指定管理者に対して施設の適正な運用について指示するとともに、今後、施設そのものあり方について検証する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。